

女性教員懇話会 ニュースレター

2013年度 第2号/2014年度 第1号
(2014年10月31日発行)

目次

ご挨拶	P.1	2013年度研究会の報告	P.4
2013年度報告	P.2	2013年度総長懇談会の記録	P.6
2014年度新事務局	P.2	事務局からのお知らせ	P.8
2014年度ランチ会のご案内	P.3	女性教員懇話会について	P.8



ご挨拶 ～2013年度から2014年度へ～

2013年度は、吉永直子さん（農）、金光桂子さん（文）、船山典子さん（理）、水町衣里さん（iCeMS）と私の5人体制で、多くの会員との情報交換を図ることのできるホームページを立ち上げることを最大の目標に取り組みました。コンテンツ作成の過程で、30年以上の懇話会の歴史と諸先輩方のご尽力を垣間見ることができ、2012年度の事務局（松下佳代代表）まで継続されてきた活動を引き継ぎたいという思いを強くしました。研究会での活発な意見交換と、HPを利用したWebアンケートの結果をもとに、女性教員の悩みの一部を総長懇談でお伝えすることができたと思います。しかしながら、全ての会員の皆様と双方向の連絡をとれるしくみ作りには至りませんでした。今年度はさらに、会員全員が気軽に意見交換できるハブとしての役割を模索していると伺っています。新しい懇話会のますますの発展のために、会員の皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

2013年度代表 見学美根子（物質-細胞統合システム拠点 iCeMS）

見学美根子先生の後任として2014年度の代表となりました金光です。昨年度の事務局から船山典子さん（理学研究科）、水町衣里さん（iCeMS）と金光が残り、豊島文子さん（ウイルス研究所）、楯谷智子さん（同）、杉坂恵子さん（学術研究支援室）が加わって、6人体制で再スタートしました。

今年の新たな取り組みは、(ほぼ)毎月のランチ会です。昨年度、HP作成にあたって創立時の資料を拝見する中で、女性教員同士、気軽に話し合える場をつくるのが、懇話会設立の目的の一つであったと知りました。また、昨年度の研究会では、周りは男性ばかりという職場環境の中、話し相手を求めている方々の多いことがわかりました。そんなところからはじまった試みです。さまざまな経歴の方の体験談に共感したり、時には真剣な議論に発展したり、かと思えばたわいもない世間話で盛り上がったり。そうした自由な雰囲気の中で、みなさんの生の声を拾っていただくと願っています。

学内では新総長が就任され、女性研究者支援センターは新たに男女共同参画推進センターとして生まれ変わりました。今後の女性研究者支援のあり方に、関心を寄せておられる方も多いと思います。11月には、新センターの見学会を兼ねたランチ会を予定しています。12月のランチ会では、ジェンダー政治をご専門にされている辻由希先生（法学研究科）に話題提供をお願いしています。例年のように、外から講師をお招きしての研究会は企画していません。ご都合のつく日があれば、ぜひランチ会にご参加

ください。心よりお待ちしております。

2014 年度代表 金光桂子（文学研究科）



2013 年度報告（活動報告・会計報告）

活動報告

2013 年度は、以下の活動を行いました。

- ・女性教員懇話会研究会の HP 開設（2013 年 5 月）
- ・ニュースレターの発行（2013 年 11 月 11 日）
- ・第 64 回研究会「大学改革期における女性支援の現状と今後を考える」（2013 年 12 月 10 日）
- ・総長懇談会（2014 年 2 月 18 日）
- ・「総長とこんなお話ししてきました」を共有する会（2014 年 3 月 4 日）

京都大学女性教員懇話会 2013 年度収支報告

収入	前年度繰越金	161,360 円
	会費納入	26,000 円
	内訳 22 名、昨年度分及び次年度以降分を含む	
	受取利子	14 円
	合計	187,374 円
支出	配送費	400 円
	研究会講師謝金	10,000 円
	小計	10,400 円
	次年度繰越金	176,974 円
	合計	187,374 円



2014 年度新事務局

事務局メールアドレス : female-jimgroup@gmail.com

- 代表 : 金光桂子（文学研究科 内線 2818）
会計 : 豊島文子（ウイルス研究所 内線 4015）
書記 : 楯谷智子（ウイルス研究所 内線 4013）
研究会 : 船山典子（理学研究科 内線 3649）
研究会 : 水町衣里（物質-細胞統合システム拠点 内線 9784）
広報 : 杉坂恵子（学術研究支援室 内線 5177）

2014 年度ランチ会のご案内

本年度からの新企画として、「お昼を食べながら、雑談しましょう♪」という目的で、毎月 1 回、京都大学吉田泉殿でランチ会を開催しています。

第一回（6 月 5 日）は、平成 24 年度に新設されたリサーチ・アドミニストレーター（URA）として働く女性陣を招き（右写真）、第三回（9 月 4 日）は、白眉センターの王 准教授を話題提供者としてお招きしました。おかげさまで、毎回、新しい出会いが生まれ、所属や職階、専門分野の違いを越えた、ざっくばらんな、情報交換の場となっています。

今後も定期的に継続する予定をしており、日時や場所が決まり次第、女性教員懇話会 WEB サイトで案内しますので、ぜひ皆様も、お友達とお誘い合わせのうえ、気軽にお越し下さい。なお現在、以下 2 回の開催が確定しています。ご参加希望の方は、連絡先（杉坂：sugisaka@kura.kyoto-u.ac.jp）までご一報ください。



第一回 ランチ会の様子

（6 月 5 日、吉田泉殿セミナー室）

第四回ランチ会

【新装 男女共同参画推進センターの施設見学会】

開催日時：11 月 7 日（金曜日）12 時～13 時

集合場所：男女共同参画推進センター玄関前

今夏、男女共同参画推進センターが新しい建物に移られました。木目調でモダンな、新築ビルです。本学教員や学生が使用できる多目的室、会議室も備えておられるとのこと。当日は、施設を見学させていただいたあと、センターの方々とランチを囲みます。

第五回ランチ会

【辻 由希さんをお招きする会】

開催日時：12 月 5 日（金曜日）12 時～13 時

開催場所：京都大学吉田泉殿（途中参加・退出可）

ゲスト：辻 由希 さん（法学研究科 准教授）

現代日本のジェンダー政治を研究している辻さんをお招きして、「先生の目に映るアベノミクス、あるいは安倍政権の女性活用指針は…?」といったお話などをお聞きできればと思っています。



2013 年度研究会の報告

女性教員懇話会第 64 回研究会 大学改革期における女性支援の現状と今後を考える

2013 年 12 月 12 日 (火) のお昼時、京都大学 iCeMS 本館 2 階において、京都大学女性教員懇話会 第 64 回研究会「大学改革期における女性支援の現状と今後を考える」を開催しました。学内の女性研究者、URA など 17 名の方にご参加いただきました。貴重なお昼休みを割いて足を運んでくださったみなさま、ありがとうございました。

開催日時	2013 年 12 月 10 日 (火曜日) 12:10-14:00
会場	京都大学 iCeMS 本館 2F 展示室
話題提供者	藤本哲史教授 (同志社大学総合政策科学研究科)
参加者数	17 人 + 事務局メンバー 5 人
主催	京都大学女性教員懇話会
協力	京都大学女性研究者支援センター
スケジュール	
12:10-12:30	趣旨説明、参加者同士の自己紹介
12:30-12:50	同志社大学総合政策科学研究科 藤本哲史教授による話題提供 「女性 R&D エンジニアの働き方 ～うまく説明できないナゾ～」
12:50-13:10	質疑応答
13:10-14:00	ディスカッション

研究会の始めに、女性教員懇話会の 2013 年度代表を務める見学美根子より、女性教員懇話会の紹介と今回の研究会の趣旨説明がありました。研究や大学を取り巻く環境が大きく変わろうとしている今日この頃、女性研究者が課題としていることをみなさんと話合いたい、というのがこの日の会の趣旨でした。

日頃あまり出会うことのないメンバーが集まるせっかくの機会ということで、まずは、参加者の自己紹介から研究会を始めました。所属とお名前、そして、この研究会に参加しようと思った動機などを共有していただきました。吉田構内だけでなく、生態学研究センターなど遠方からもご参加いただいたことが分かりました。また、育児やワークライフバランスに関する悩みを抱えた方が多く参加されていたように思います。

参加者のみなさんと議論するにあたり、関連する話題を提供していただく先生をお招きしていました。同志社大学総合政策科学研究科 藤本哲史教授です。藤本先生は、理工系女性研究者・技術者のプロフェッショナル・コンフィデンス (専門能力に対する自信) とキャリア形成に関する研究をされています。現在、大学に所属している理工系女性研究者の調査を開始されたところなのですが、その前には、企業の R&D セクションで働く女性エンジニアを対象とした調査研究をされていました。大学で働く私たちが企業の研究環境に学ぶところも大きいのではないかと、思い、お話をお願いしました。

藤本先生が研究で明らかにしたかったことは、
1) R&D エンジニアのキャリア継続意識に男女差あるのか? どれ位差があるのか?、2) もし差が

京都大学女性教員懇話会第 64 回研究会
大学改革期における女性支援の現状と今後を考える

女性教員懇話会は、京都大学で働く女性研究者の研究教育活動の環境向上のために、様々な取り組みを行ってきました。その中の 1 つの取り組みが、研究会の開催です。今年も 12 月 10 日に開催します。研究を取り巻く環境が大きく変わろうとしている中で、女性支援のあり方について、みなさんと意見を交換したいと思っております。ぜひお問い合わせの上、お参加ください。

2013 年 12 月 10 日 (火) 12:10~13:00 (~14:00)
京都大学 iCeMS 本館 2 階セミナー室
(京都市バス「京大正門前」下車すぐ/東一乗交差点 北西角)

対象	教職員、学生、その他	タイムスケジュール
	*学内の方限定です。 *男性も歓迎します。	12:10-12:20 趣旨説明 12:20-12:40 話題提供 12:40-13:00 質疑応答 13:00-14:00 交流会

女性 R&D エンジニアの働き方へうまく説明できないナゾ～
藤本哲史 (同志社大学総合政策科学研究科 教授)
質疑応答のディスカッション
交流会
*お昼時なので、ランチ休憩をお願いします。
*研究会は一旦 13 時で終了しますが、お時間のある方は交流会もぜひどうぞ。

話題提供者
藤本 哲史
同志社大学総合政策科学研究科 教授
理工系女性研究者・技術者のプロフェッショナル・コンフィデンスとキャリア形成に関する研究をされています。

会場付近の地図
iCeMS 本館

お問い合わせ先
女性教員懇話会事務局
HP <http://yodoufemale.web.fc2.com/index.html>
E-mail female.jimgroup@gmail.com



あるのであれば、その差を男女間の家族的責任やワークライフバランスの実態、プロフェッショナル・コンフィデンス（専門能力に対する自信）の差異で説明できないか？、ということでした。4500人程度（内、女性は700人程度）を対象にしたインターネット調査の結果、1) キャリア継続意識に男女差がある、2) ただ、この差は、想定していた「家族的な責任の制約がかかっているから」や「ワークライフバランスが取りにくいから」といった要因では説明ができなかった、ということが分かったそうです。

藤本先生からの「キャリア継続意識の性差を説明する要因として他に考えられる要因は何だと思いますか？」という問いかけをきっかけにして、話題提供の質疑応答や参加者との議論が続きました。

時間の許す方だけでしたが、輪になって議論を

続けました。「女性研究者のロールモデルが少ないのではないか」「女性の方がキャリアパスの選択の幅が広いのかもしれない」といった話題で盛り上がりました。

話は尽きないようでしたが、そろそろ終わりの時間も近付いてきた、ということで、この日の研究会はお開きになりました。参加した女性研究者からは、「この研究会のような情報や経験を共有できる場が必要」、「このような機会があることで、普段会うことのない人と会って、みんなの様子を知ることができる」というような感想をいただきました。

この日、みなさんとお話をさせていただいた内容や今回の研究会の開催に合わせて私たちが実施したアンケートの結果などをまとめて、2014年2月18日に実施した総長懇談会に臨みました。



2013 年度総長懇談会の記録

2014 年 2 月 18 日（火）総長懇談会を行いました。

実施日時 2014 年 2 月 18 日（火曜日）12:00-12:50

会場 京都大学 本部棟 総長応接室

出席者

総長側：

松本紘 総長

稲葉カヨ 副学長／女性研究者支援センター センター長

塩見佳男 理事補

女性教員懇話会：

見学美根子、金光桂子、水町衣里、吉永直子、船山典子

1. 概要

2014 年 2 月 18 日（火）、総長懇談会を行いました。まず冒頭に、女性教員懇話会代表の見学から挨拶を述べ、本年度の女性教員懇話会の活動内容（研究会、アンケートなど）について報告し、懇話会側が簡単に所属と氏名の自己紹介を行いました。懇話会側が持参した「研究会・アンケート報告資料*1」に総長が目を通された後、懇話会側からの要望などについて話が進みました。

*1「研究会・アンケート報告資料」は、女性教員懇話会の HP からダウンロードできます。

<http://kyotoufemale.web.fc2.com/activity.html>

懇談会でお話をした主な内容は以下の通りです。

- 1) 懇話会が実施したアンケートの回答数は少なかったのですが、その中から懇話会事務局として問題を抽出し、要望 4 点を総長や女性研究者支援センター長に伝え、その回答を得ることが出来ました。
- 2) 総長は特に、土日の業務（入試など）時の子供の預け先問題（資料の 4）、遠隔地の女性研究者支援（資料の 5）に関しては、積極的に考えたいとのことでした。
- 3) 総長側としては、「大学が実施するアンケートであっても回答数が少ない」、「女性研究者支援センターを託児サービス関係以外で利用している様子があまり見られない（女性研究者が日頃から集まって情報交換をしたり、大学へのニ

ーズが集まったりするような場になれば良いと総長は考えていらっしゃる)」ことから、学内研究者の要望が執行部からは見えない、だからサポートしにくい、ということでした。

大学から何かしらのサポートを得るためには、アンケートの回答数を増やすこと、明確な要望をまとめることが必須ということのようでした。ただ、アンケートの回収率を上げる方策が課題として残っています。

2. 詳細

1) 要望としてお伝えした事項といただいたお返事

・土日や夜間などに入試業務が入った場合の支援について

懇話会：乳幼児の託児に関する支援ができないか？

総長側：事前に人数を調べる必要があるが、女性研究者支援センターで支援は可能。外部の業者を利用することになるので、一定の利用料はかかる。

稲葉先生：女性研究者支援センターが開催する研究会では託児サービスを行っている。

総長：女性研究者支援センターに補助金を出して支援するという可能性もある。ただし、想定される利用者数など、事前にニーズを明確に把握する必要がある。

懇話会：小学校低学年などは、博物館などの学内

施設で預かることはできないか？

総長：入試会場と離れている点は良いが、安全面での管理などが難しい。子供向けの展示室などを設置するのは、将来的に検討しても良い案ではあるが、現状の予算と人員では難しい。

2) 遠隔地での女性研究者支援

総長：以前行ったアンケート（何年度に実施したものかは不明）では、要望が出なかった。遠隔地といっても、全てカウントすると全国に30数ヶ所あるため、一定の規模以上の所しか考慮出来ないだろう。

稲葉先生：病児保育が問題となっており、現在で宇治キャンパスや桂キャンパスなどの近くの病院の情報収集などを進めているところ。待機乳児数は、将来的には減少傾向の見込み。

総長：学内に託児所の必要があるのか？（以前は特にその必要はなし、という意見を耳にした）

懇話会：一長一短。民間の託児所は、遊具などが多いなど、ケアがより良いことが多い。一方で、もしも学内に託児所があれば、「近い」というメリットが大きい。特に乳児には良いだろう。

稲葉先生：現状では、それぞれが自分のニーズにあった託児所を選んでいるようだ。

総長：民間なり、学内なり、どれ位のニーズがあるのかを知るチャンネルが欲しい。

3) 双方向的な情報発信/集約の場の必要性

総長&稲葉先生：大学が実施するアンケートに関しても回答率は非常に低い。事務から何度も呼びかけても回収率はあがらない。

総長：女性研究者支援センターが、ふらっとみんなで集まれるような情報交換の場でもあって欲しいと思っている。

懇話会：女性研究者支援センターは乳幼児を預かっていることから、普段は鍵がかかっている、ふらっと立ち寄ることは難しい*2。

*2 センターの鍵は、IDカードの登録をすれば入れるようにはなる。来年度、女性研究者支援センターが新たな建物に移転するが、現状の計画では託児室の奥に会議室がある。そのため、女性研究者が気軽に集う場として利用することは難しい。

懇話会：北部構内や本部構内から女性研究者支援センターまで距離がある。セミナー室など別の場で、自主的に女性教員が集まることができたら、大学側へのニーズなども集まりやすいのではないかと*3

*3 今年度の女性教員懇話会主催の研究会の際にも、気軽に集まることのできる機会が欲しいという話は出ていた。ただ、過去にこのような試みはあり、長続きしなかったらしい。継続の為にコストを誰が抱えるかという課題もある。

4) 本部構内の駐車場の利用制限を緩める（例えば、月4回から月8回へ） 必要性

総長：スペースには限りがあるのでなかなか難しい。駐車場の利用を希望する人数が非常に多いことが考えられるので、要望を出す人たちのどこで線を引くかということが困難。ただ、どういう状況であれば優遇すべきという基準などがあれば動かすことができる。現状では、どういった条件にしたら、現実的なスペースに見合った条件に絞ることができるのかが不明*4。

*4 ただ、女性教員懇話会が全教職員のニーズを集約し、カテゴライズし、基準を作成するのは困難。

5) その他、総長からの問いかけ

総長：京都大学の「研究力」について、どう思うか？研究の質や量が低下しつつあるようだ（日本全国的にだが）。

昔は、学生の時には、その時には何に役立つかが明確でなくとも、盲目的に勉強し、後で、学んだことが役立った、と感じたものだった。将来、何かを創造するための基盤となる知識を、盲目的に／勤勉に勉強するというのを大学でも大事にしたよと思っている（もしかしたら、大学より前の、家庭での教育や、義務教育での課題でもあるかもしれない）。

本を読まずにネットで情報を収集するだけでは、断片的に情報を取り出すことしかできなくなる。記憶した知識を統合して何かを生み出すことが創造。即ち研究が出来なくなっていくのではないだろうか。

事務局からのお知らせ

お願い：「女性教員懇話会ニュースレター」をもっと多くの女性研究者へ！

京大で働く女性教員・研究者の数が増加し、就業形態も多様化するにしたがって、「女性教員懇話会ニュースレター」をお届けできていない方が増えています。女性教員懇話会のHP上にPDF版ニュースレターの掲載も行っていますが、メールアドレスをご登録頂いた方にはメールでの配信も行っています。お近くにまだ受け取っていない方がおられましたら、ぜひメールアドレスをお知らせください。転送大歓迎です。

ご協力のほど、どうぞよろしく！

年会費（各年度500円）の納入、どうぞよろしくお願ひします

振込用紙のほか、インターネットバンキング等によるご入金も受け付けております。

振込先

郵便振替口座：01010-9-3258 名義：京都大学女性教員懇話会

*他の金融機関から振り込む場合

ゆうちょ銀行 一〇九店（イチゼロキユウ店） 当座 0003258

（金融機関コード：9900 店番：109）

納入済年度が不明の方は、下記事務局宛にメールでお問い合わせください。

ニュースレター配信用のメールアドレスを登録してください。変更もお知らせください。

迅速性、経費節約、事務局の省力化、すべての面でメールによる配信が合理的です。

ご連絡はメールをお願いします。

事務局メールアドレス：female.jimgroup@gmail.com



女性教員懇話会について

女性教員懇話会は、①京都大学に在籍する女性教員相互の親睦と交流、②各自が当面する諸問題についての情報の交換、③女性研究者の地位の向上と差別の撤廃を目的とする自主的な組織です。京都大学に在籍するすべての女性教員（助手・助教・講師・准教授・教授）および医員・技術職員・教務職員・非常勤講師・元教員を潜在的な会員として想定し、ニュースレターをお送りしております。当会は1981年に「女性教官懇話会」として発足して以来、女性教官の実態調査の実施と報告書の提出、セクシュアル・ハラスメント事件について事実の解明と性差別を撤廃するための委員会の設置などを求める「要望書」の提出、『女性教員・卒業生からみた京都大学——研究・教育環境調査から——』の刊行など、様々な活動を行ってきました。1982年以降は、毎年定例化して総長との会見を行っています。また、創立以来、研究会（年2回）などの実施により、専門分野を超えた交流と親睦の充実に力を入れてきました。

法人化により「教官」という身分がなくなったことを受けて、2006年1月18日に名称を「女性教官懇話会」から「女性教員懇話会」に変更いたしました。

当会の一番の魅力は、日頃は触れることのない遠く離れた分野の研究の状況を垣間見ることができる点にあります。会員の思想・信条の自由を尊重し、会として政治的活動をすることはありません。女性同士で“楽しくお喋り”をする機会として、是非お気軽にご参加ください。

女性教員懇話会事務局（2014年度）

金光桂子（代表）・豊島文子（会計）・楯谷智子（書記）・船山典子（研究会）
水町衣里（研究会）・杉坂恵子（広報）

連絡先 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科 金光桂子 気付
女性教員懇話会事務局

Email: female.jimgroup@gmail.com